

◇能勢町下水道条例の一部を改正する条例について

◇令和7年度能勢町一般会計補正予算(第7号)

補正額 △2億2,072万円 (決算見込みによる減額補正等)

◇令和7年度能勢町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)

補正額 9,317万円 (保険給付費の増加に伴う補正等)

◇令和7年度能勢町介護保険特別会計補正予算(第3号)

補正額 258万円 (制度改正に伴う介護保険事務システム改修費の補正)

◇令和8年度能勢町一般会計予算

【反対討論】 難波 希美子

大きく二つの理由で反対する。第一に、宿野四区・大里・柏原地区の企業誘致に反対である。本町は企業誘致よりも自然と共存していくスタイルをもっと確立していくべきと考える。第二に、公共施設再編計画における住民の意見聴取や説明不足があるのではないかと危惧している。

【賛成討論】 中植 昭彦

町制施行70周年の節目、本予算を能勢町の再生に向けた「希望ある一步」にしなければならない。消防団の機能強化や防災拠点整備、給食無償化に加え、地域福祉や健康増進策の充実など、全世代の安心と未来への投資が両立されている。戦略的なシティブロモーションや企業誘致、旧庁舎跡地整備といった「攻めの投資」を、対話を通じて進める姿勢を評価する。厳しい財政状況だが、国からはふるさと住民登録制度など新たな財源確保策も示された。これらを迅速に活用し持続可能な未来を切り拓く適正な執行を強く要望し、本予算案に賛成する。

【反対討論】 中西 顕治

町政運営方針で「続けられる農業」「教育の魅力発信」と大きな旗を掲げるが、実情を踏まえた裏付けが伴っていない。優良農地を産業用地へ転用する方向性は農業振興との矛盾を露呈しており、方針と施策が根本から乖離している。教育においても、転入者の実態に向き合うことなく対外的な発信を優先する姿勢は、現場の課題を後回しにするものといわざるを得ない。新生涯学習施設整備では、住民との対話を掲げながら改修方針を既定路線とするなど、住民参加の理念と実態が矛盾している。言葉と施策の乖離が随所に見られる本予算案に反対する。

【賛成討論】 森田 則子

本予算は住民生活を支える予算であり、執行の遅れは住民サービスの停滞につながる。財政は厳しい状況だが、農業・産業振興、交通対策、防災、福祉、教育など生活に直結する事業が適切に計上され、必要性も確認したところだ。その上で安心安全な暮らしの構築のため、縦割りではなく横断的に各行政機関が連携を密に成果を上げられるよう要望する。

新生涯学習施設についても、既存体育館が専門家の診断で利用可能と示されており、今後は計画段階で住民の声を丁寧に反映し、改善を図ることを求め、住民生活を支えるための本予算に賛成する。

【反対討論】 井上 加奈子

昨年度予算には期待を込めて賛成するとともに、放課後児童クラブの土曜開設や子育てインフラの人材確保、新生涯学習施設計画に関する情報共有や比較検討、高校生の通学費支援を求めた。これらの取組みについて1年間注視したが議会での議論や公約に向き合う姿勢が見られない。

また教育では、1人1万円の学用品支援の安定的な継続をせず、発信に重きを置いた施策の方向性に疑問が残る。さらに新生涯学習施設計画においても、意思決定の整理や情報共有がいまだに不十分である。

以上の懸念を表明し、本予算に反対する。

【賛成討論】 岡本 ひとし

町政運営方針を踏まえた予算編成である。

子どもまんなか社会の実現を根幹に、特色ある教育環境の整備や教育の魅力発信を進め、子どもの未来応援センターの設置、放課後児童クラブの活用が求められている。新生涯学習センター整備は学びと交流の拠点となることを期待する。豊能郡環境施設組合負担金は最終処理完了予定である。中山間地域等直接支払交付金、集落営農連携等強化促進、獣害対策事業の活用が求められ、憩いの広場、旧田尻小学校跡の防災コミュニティ施設整備が急がれる。

最小の経費で最大の効果を期待し賛成とする。